

ソー・バン・ヒー

東南アジアに位置するカンボジアは、洪水、干ばつ、嵐といった自然災害の非常に多い国です。自然災害に加えて、カンボジアでは戦争や火事などの人的災害も起こっています。他のアジア諸国と同様カンボジアでは、こうした災害の中で洪水による被害が、年間を通じて最も大きなものとなっています。アジアにおける洪水は、近年非常に激しくなっており、特にこの数年間では非常に大きな被害をもたらしています。



カンボジアの2000年度の洪水は、歴史上最悪の被害となる全く予想外の大規模のものでした。過去の記録の中で最も長びき、被害地域は広く、被害の大きさも甚大でした。21地域の750,618世帯が被害を受け、688,021ヘクタールの消費用および商業用作物が損害を被りました。また、多くの建物やインフラが壊滅的な被害を受けました。このように甚大な被害を及ぼした洪水によって、カンボジアにおける災害対策をもっと改善し、強化していかなければならないという認識に達しました。

この結果、国家災害対策センター(NCDM)総務局は国家レベルから地方レベルまでの職員の能力向上のための活動分野に目を向けています。NCDMは、国家レベルでまず災害軽減・防止のためのプランを実施し、ついで州・地方レベルの職員にそのプランを適用していくことを考えています。

こうした災害に弱い国家から来た客員研究員として、私はADRCメンバー国と災害情報を共有し、そこから学んでいくことを心から望んでいます。情報共有以外には、災害軽減や災害対応についての研究を行っていきたいと思っています。ADRCのWEBでは、インターネットを利用したGISシステム「ベンテン」を含め、世界各国の研究者に数多くの災害対策情報を提供しています。私が客員研究員としてADRCの一員として勤務を始めて1ヶ月が経ちました。ここでの経験は大変満足のものだと思っています。これは、知識を分かち合うことに熱心なADRCのスタッフのすばらしいサポートのおかげです。

最後に、カンボジアのNCDMが災害軽減のための能力開発プログラムを開催するのにADRCご尽力をいただいたことに対し心から感謝したいと思います。ADRCのサポートのもと、NCDMはCham、Kandal、Pursatの3つの災害に対し脆弱な地方において、トレーニングプログラムを実施することができました。また、ADRCが私に客員研究員として勤務する機会を与えてくれたことに対しても非常に感謝しております。この経験はNCDMに災害軽減と対策のための専門知識と新しい技術を与えてくれるものと思います。

〈So Ban Heang, カンボジア国家災害対策委員会総務局科学技術部事務局長〉